

事業コード	H19-建-継-12		区 分	○ 国庫補助 ● 県単独
事業名	高速交通関連事業		部局課室名	建設交通部 道路課
事業種別	道路改築事業(バイパス)		班 名	道路建設班 (tel) 018-860-2493
路線名等	(主) 琴丘上小阿仁線		担当課長名	加藤 修平
箇所名	三種町 上岩川		担当者名	伊藤 茂
総合計画との関連	政策コード	U	政 策 名	交流・連携と生活を支える交通基盤の整備
	施策コード	04	施 策 名	地域内交通ネットワーク・生活圏交通の整備
	指標コード	02	施策目標(指標)名	県道改良率

1. 事業の概要

事業期間	H14 ~ H25 (12年)	総事業費	25.0億円	国庫補助率	-	
事業規模	○ 延長 L=4,595m、幅員 W=6.0(11.0)m					
事業の立案に至る背景	○ 主要地方道琴丘上小阿仁線は、旧琴丘町の国道7号を起点とし、上小阿仁村の国道285号を終点とする幹線道路である。平成19年度における秋田県内の日本海沿岸東北自動車道の進捗は、「岩城～仁賀保」、「能代南～二ツ井白神」間が新たに開通し、特に琴丘能代道路は全線供用となり、その中に位置する琴丘森岳ICへのアクセス強化を図るため、本事業を行い県内90分交通体系を実現する道路の整備を行う。					
事業目的	○ 高速道路ICへのアクセス強化 ○ 救急医療面での第3次医療ルートの確立 ○ 地域の交通安全の確保(バイパス新設・歩道整備)					
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)		計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等	
	事業費	2,500,000	2,500,000	0		
	経費内訳	工事費	2,024,000	2,024,000	0	
		用補費	189,000	189,000	0	
		その他	287,000	287,000	0	
	財源内訳	国庫補助	0	0	0	
		県 債	2,374,000	2,374,000	0	
その他		0	0	0		
一般財源	126,000	126,000	0			
事業内容	調査・設計 用地買収補償 改良工、橋梁工、舗装工	調査・設計 用地買収補償 改良工、橋梁工、舗装工				
事業の進捗状況	○ 用地買収が約9割完了しており、事業の進捗としても平成19年度末で3割を超えている状況である。					
事業推進上の課題	○ 樋向遺跡Iほか6遺跡の発掘調査が、今年度で完了する。					
関連する計画等	○ あきた21総合計画における「交流・連携と生活を支える交通基盤の整備」を支援する事業					
情勢の変化及び長期継続の理由	○ 高速道路を利用した救急医療が注目されており、救急医療ルート確立のためにも本事業の促進が必要である。					
事業効率把握の手法及び効果	指標名	高速ICへのアクセス機能の強化				
	指標式	最寄ICまでのおおむね30分以内の旧市町村数				
	指標の種類	○ 成果指標 ● 業績指標	低減指標の有無	○ 有 ● 無		
	目標値 a	56 %	データ等の出典	道路課調査による		
	実績値 b	56 %				
達成率 b/a	100.0 %	把握の時期	平成19年 8 月			

前回評価結果等	選定または継続 改善 見直し 保留または中止
	指摘事項
	特になし
	指摘事項への対応
	特になし

2. 所管課の自己評価

観 点	評 価 の 内 容 (特 記 事 項)	評 価 点
必 要 性	第3次緊急輸送路であり、他に機能が競合する路線は存在しない。 当区間は車道幅員が5mと狭小で大型車及び路線バスの運行に支障を来している。 現道は通学路指定されているにも係わらず、歩道が未整備で歩行者の安全性が脅かされている。	12点
緊 急 性	本路線は、日本海沿岸東北自動車道の琴丘森岳ICのアクセス道路として計画されており、県内90分交通体系を実現する道路の整備として早急に行う必要がある。 現道は、曲線半径30mを始めとする屈曲箇所が多く存在し、冬期交通の安全性確保が困難な隘路となっている。	10点
有 効 性	日本海沿岸東北自動車道の琴丘森岳ICアクセス道路であり、県内90分交通体系の実現として有効性は高い。 第3次緊急輸送路として、災害や救急医療施設のアクセス道路としての活用も見込まれ、防災計画上の重要路線である。	26点
効 率 性	道路橋梁計画部の河川局部改良工事を行うことにより、下流の河川改修事業と一連の治水効果が発揮できる。 事業の費用便益比は1.00である。	18点
熟 度	地元住民の事業推進に対する熱意が高く、用地取得等についても順調に交渉が進んでいる(用地買収は約9割完了している)。引き続き改良工を促進していく。	15点
判 定	ランク () 「有効性」が特に高い点数となっており、日本海沿岸東北自動車道の琴丘森岳ICへのアクセス道路として県内90分交通体系を実現する有効性が高いことから引き続き実施すべきである。	81点
総 合 評 価	継続 改善して継続 見直し 中止 事業継続は妥当である。	

3. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

引き続きコスト縮減に留意しながら事業を継続する。

4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を「可」とする。

評価種別 継続箇所評価

事業コード(H19-建-継-12)

適用基準名 道路改築事業(地域間交流・連携促進)

箇所名 (三種町 上岩川)

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	道路の現状の問題				
	・車道幅員 < 5.5 m	3箇所以上	8	8	2次改築事業については該当しない。
	・最小半径 < 100 m	2箇所	5		
	・最急勾配 > 5 %	1箇所	3		
	・冬期堆雪巾なし	0箇所	0		
	道路環境上の欠陥該当項目	5件該当	7		
	・現道の混雑度 1.0	4件該当	6	4	2次改築は配点15点 2次改築は配点12点 2次改築は配点10点 2次改築は配点8点 2次改築は配点4点
	・現道の旅行速度 30km/h	3件該当	5		
	・現道の事故率 50件	2件該当	4		
	・通学路指定で歩道なし	1件該当	2		
・重大交通事故が発生	該当項目なし	0			
計			15	12	
緊急性	道路をとりまく環境等				
	関連事業の有無				
	・県の主要プロジェクト	あり	5	5	
	・地域振興プロジェクト				
	・ほ場整備等の他事業	なし	0		
	市町村合併支援道路	位置づけあり	5	0	
	位置づけなし	0			
特有の課題の有無	あり	5	5		
老朽橋、災害危険箇所、冬期通行不能区間等	なし	0			
計			15	10	
有効性	道路の位置づけ				
	緊急輸送路				
	第1次輸送路	第1次輸送路	10	6	
	第2次輸送路	第2次輸送路	8		
	第3次輸送路	第3次輸送路	6		
	指定なし	指定なし	0		
県内90分交通体系、全国1日交通圏等に	あり	10	10		
	なし	0			
社会変化による事業の必要性	必要性が高い	10	10		
	低下傾向	6			
	必要性が低い	3			
計			30	26	
効率性	事業の投資効果等				
	費用便益比(B/C)				
	1.0以上	1.0以上	5	5	
	1.0未満	1.0未満	0		
	計画交通量				
	5,000台/日以上	5,000台/日以上	5	3	
1,000台/日以上~5,000台/日未満	1,000台/日以上~5,000台/日未満	3			
1,000台/日未満	1,000台/日未満	0			
コスト縮減	あり	5	5		
	なし	0			
事業中止による影響	既投資額の損失大	5	5	etc 大規模バイパス etc 部分的ミニバイパス etc 現道拡幅	
	既投資額の部分的損失	4			
	既投資額の損失が少ない	3			
計			20	18	
熟度	事業の進捗進捗状況				
	事業の進捗(事業費)				
	8割以上完了	8割以上完了	10	5	
	5割以上完了	5割以上完了	8		
	1割以上完了	1割以上完了	5		
	1割未満	1割未満	2		
用地買収の進捗(面積)					
8割以上完了	8割以上完了	10	10		
5割以上完了	5割以上完了	8			
1割以上完了	1割以上完了	5			
1割未満	1割未満	2			
未着手	未着手	0			
計			20	15	
合計			100	81	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
	優先度が高い	80点以上		
	優先度が低い	60点以上~80点未満		
	優先度が低い	60点未満		